

フィンランド生まれの「ムーミン」は、大人にも子どもにも人気が高いキャラクターですよね。絵本の中で、ムーミンたちが北欧の短い夏を謳歌するように、夢中でベリー摘みするシーンがとても印象的なのですが、青森県の下北半島にも様々なベリーを栽培し、魅力的な商品を開発している方がいます。ベリーオーチャド下北の大平貞仲さんと南さん親子です。

下北半島生まれのベリーソルトはこころ踊る天然色です



ベリーオーチャド下北【青森県むつ市】

「ベリーオーチャド下北」の名前を知ったのは、百貨店に並んだ「ベリーソルト」のラベルでした。小さなボトルに入った塩はとてもカラフル。虹色やかわいらしい模様が描かれていました。驚いたのは、塩の鮮やかな赤や紫、濃淡のピンク色がベリーで染められていること、そしてそのベリーが下北半島で作られていることでした。

「神奈川県出身ですが、仕事で小笠原諸島に赴任した後、縁あってむつ市へ移住しました。180度違う環境に来たという感じです」と話すのはベリーオーチャド下北を運営する有限会社下北半島ネットワークの代表取締役・大平貞仲さん。当初はインターネットの仕事を中心にしていました。

「下北半島ではフルーツを栽培していない。土地を探してあげるから、大平さん作ってみたら」。そんな仕事先でのちょっとした雑談が「ベリーオーチャド下北」を立ち上げるきっかけになりました。

むつ市の冬の寒さは厳しく、最低気温はマイナス15度になることもあります。夏も季節風のことあります。

「やませ」が吹くなど、農作物の栽培には厳しい環境です。

「2003年からベリーの栽培を始めましたが、試行錯誤の連続です」と大平さん。栽培技術を磨きながら、ベリーを使ったオリジナルの商品開発も進めました。

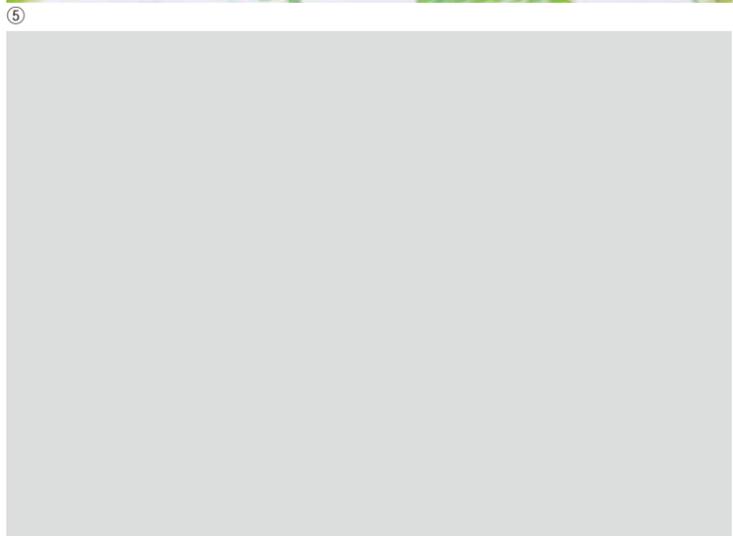
「ベリーを下北半島の特産品にしたい。そのためにはベリーを活かした競争力のある商品を作らなければと工夫を重ね、できたのがベリーソルトです」。そんな大平さんのパートナーが娘の南さん。大学で洋画を学んだ経験を生かし、ベリーソルトの模様やパッケージデザインなどを担当しています。

「ものづくりはおもしろくもあり、難しくもありです。一番難しいのはコスト管理を担当する父との折衝かも」と笑顔を見せる南さん。

お二人には次の夢があります。それは地域の人たちとも連携しながら、ベリーの摘み取りや食事、ショッピングを楽しめる企画の実現です。近い将来「夏はベリー狩りに下北」というツアーが人気になるかもしれませんね。

- ①④ 雨上がりがキラキラ光っているのはレッドカラント。日本では赤房スグリと呼ばれています。北欧諸国で盛んに栽培され、長い冬のビタミン源になっています。
- ②③ 今、一番力を入れているポイズンベリー。甘酸っぱく、豊潤な香りが魅力。アントシアニンというポリフェノールが豊富で美容に効果が高いそう。
- ⑤ ベリーソルトのパッケージは人気商品。「タレ目をバランスよく入れるのが難しいです」と南さん。
- ⑥ 大平さんのベリー畑ではポイズンベリー、ブラックベリー、レッドカラント、ホワイトカラント、アロニア(チョコベリー)、ブルーベリー、カシス、ブズベリー、ケープグーズベリー(食用ホオズキ)を栽培しています。
- ⑦ もうすぐ販売予定のソルトセット。真っ白いおむすびに、ベリーソルトでお絵かきしたいですね。
- ⑧ ピンク色、赤、紫色はベリーの色。オレンジ色はニンジン、緑はホウレンソウ、黄色はカボチャの色素を使っています。
- ⑨ 猫ちゃん(右)とワンちゃん(左)が瓶に閉じ込められたみたい。
- ⑩ ボトルの上下を反対にして、こけしのシルエットを表現。
- ⑪ ポイズンベリーの手作りティ。色がとってもきれい。香り豊かでとてもおいしいんです。
- ⑫ 自作の油絵をバックにした南さん(右)。シャイな貞仲さんは、控えめに出演いただきました。

※夏に北東から吹く冷たく湿った季節風。農作物の生育にも大きな影響を与えます。



ベリーオーチャド下北  
青森県むつ市緑ヶ丘13番6号  
TEL.0175-23-2168  
<http://www.0175.co.jp/berry/>